

ボランティア体験(元.8.8)

3年生の女子生徒が福島県での6日間のボランティア体験を約4,000字にまとめて私の所に来てくれた。

松江農林高校に入学したときから保育のボランティア体験に何日も参加していたそうだ。

今回は、違う自分に出会いたいという目標を持ち、知人のいないボランティア体験を選じた。

「理想の人の真似をしてみました。」「今回、様々な活動で自分の意見を言うこと、今までの自分であればできなかったことをやりました。」「一生懸命何かに取り組んでいる姿がかっこいいと思えるようになりました。」「挨拶をした後に伝えたい内容を話すことの大切さがわかりました。」「別れ際にお祖父さんやお祖母さんから『ありがとう。』と言われて嬉しくて泣いてしまいました。」「私はもっと成長できる、やればできるという自分の可能性を発見しました。」と女子生徒の弁。

女子生徒は保育士を目指し、小学校4・5年生の時に住んでいた隠岐の島町のために子どもたちと関わりたいと希望を語ってくれた。その理由が隠岐の島町の人へのぬくもりが今でも忘れられないという体験である。人との出会いは人を変える。偉大だ。

